

「まちかど」カラー版は、品川区役所ホームページからご覧いただけます。 <https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

花めぐり

ヤマブキ

木々も伸びやかに葉を伸ばす4月。鮮やかな黄色の花を咲かせるヤマブキは太田道灌の逸話でも知られます。

江戸城築城でも知られる太田道灌。鷹狩りの折り突然の雨に蓑を借りようと民家に立ち寄ると、対応した娘は黙って山吹の一枝を差し出し、下がってしまいました。道灌は訳もわからず腹立たしく思いながら城に帰り、家臣にその話をする。「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだに無きぞ悲しき(兼明親王)」という和歌に託して(実の→蓑)がないことを告げたのだと知らされました。道灌は古歌を知らなかったことを恥じその後、歌道に励んだということです。

その山吹の花。八重の花は雄しべが花弁に変化し雌しべも退化したため実がなりません。一重の花は小さな実が数個まとまってつきます。



昨年中原公園にて撮影

花言葉は気品、崇高、金運など。
(小山一丁目 河原 マサ江)

とめる経験となりました。

一方、最近の首都直下地震発生時の被害と影響、対応の流れ、日頃からの備えについて学ぶことを目的とした地域実践コース「首都直下地震に備える」が令和5年2月25日(土)午前に荏原第一地域センター集会所で開催されました。

令和4年5月に10年ぶりに改訂された想定被害は、各地区の都市整備や建て替えによる耐震性能向上によって、建物崩壊被害や人的被害は軽減。しかし、荏原第一地区では震度6強の強い揺れが発生し、揺れている間は這わないと動けず、固定していない家具が移動したり倒れたり、耐震性の低い建築物は傾くものや倒れるものが多くなる被害となるそうです。突然の激しい揺れに襲われた場合には、我が身を守ることが大切であること。さらには状況に応じた地震からの身の守り方を再確認した他、日頃からの備えとして大切な①身の安全を守る。②被害を最小限に留める。③難をすり抜ける。④安心して生き延びる。の4つの標準行動規範を挙げ、自助としての我が家の防災への取り組みべき準備、対応について細かな説明も改めて確認できました。

いつ生じるかわからない地震に対して、改めて日頃からの準備の大切さを認識する良い機会となりました。

(小山三丁目・防災士・澤田 俊二)

シリーズ **品川平塚剣**
 ～少年達と三年

令和4年12月26日
 ちと納会を行いました。ちととの交流に夏の年末の納会を設けたちがお話のできる今回、3年を越えてした。こんな時期で約半数でしたが、対策をしながら、和や最初は年間の報告発表した後、全日本少年剣道教育奨励賞た剣道手拭いを参加は1年の反省と来の発表をしてもらいました。順番は子供達に自発的に決めさせ、皆楽しそうに話す姿を見て、納会を楽しみにしてくれていたのだと安堵いたしました。発表は笑いがあり、感動ありの一場面でした。

(荏原三丁目 池田 晴夫)



第 2 1 5 号

令和5年(2023)4月発行

発行・事務局

◎荏原第一地域センター◎

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385



感染症の影響で3回中止になりました。

小山四丁目
町会主催の「コ
ヤヨン祭り」は
毎年5月に開
催されていま
したが、新型
コロナウイルス

武蔵小山緑道公園に



「しながわ防災学校」

に参加して

曜日のコヤン祭りには是非参加して楽しんでください。
(小山四丁目・東 美佐栄)

高齢者クラブ紹介

松寿会

(小山五丁目町会)



小山五丁目松寿会は、昭和49年2月に発足し、小山五丁目に居住している60歳以上の方を対象に、会員数は現在90名強を数えます。

会員の方々の健康で豊かな生活とその質の向上を図り、様々な活動を通じて地域に貢献することを基本方針としています。私は昨年4月に新たに

毎月、手芸、踊り、カラオケ、輪投げなどのサークル活動のほか、地元の三谷八幡神社の清掃、町内の緑化推進、児童の見守りを実施。また、会員相互の懇親のため、誕生日会や新年会などを開催しています。

輪投げは大会で、このところ常に上位に入り、午後の部で優勝するなど頑張っていますが、今年の成績は若干低調です。次の大会での活躍が期待されます。

カラオケなどは活動場所が閉鎖になったり、再開したりで、コロナ禍において、思った取り組みができないことが悔やまれます。早く通常に戻ることを切に願うばかりです。皆様の入会と参加を心よりお待ちしております。

(松寿会会長・山本 淳一)

シリーズ
品川平塚剣友会⑪
少年達と三年振りの納会を得て

令和4年12月26日に3年ぶりに子供たちと納会を行いました。かつては、子供たちとの交流に夏の合宿、納涼会、そして年末の納会を設けて、先生たちと子供たちがお話のできる場を設けてきました。今回、3年を越えてやっと実現ができました。こんな時期ですので子供の参加は約半数でしたが、コロナウィルス感染対策をしながら、和やかに行われました。

最初は年間の報告や、来年の計画等を発表した後、全日本剣道連盟から頂いた少年剣道教育奨励賞の日本武道館を描いた剣道手拭いを参加者に贈り、子供達には1年の反省と来年の願いを話す恒例